

## 研究主題

### 「追究する力を育てる社会科学習」 ～主体的・協働的に学ぶ学習の充実（歴史的分野）～

川越市立川越第一中学校

#### 研究のポイント

- 関東ブロック中学校社会科教育研究大会埼玉大会（以下：関ブロ）の研究と関連付け、単元計画や授業の指導方法等の工夫・改善を行う。
- 川越市立博物館と連携し、地域教材の開発を行い、適切な活用方法について研究する。

## 1 研究の概要

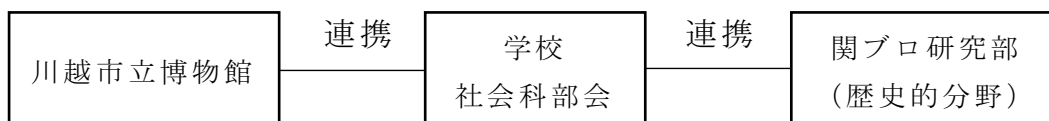
### （１） 研究のねらい

社会科学習において追究する力を育てるための方策を、主体的・協働的に学ぶ学習の充実に着目して、授業実践を通して明らかにし、学習指導の工夫改善に資することをねらいとする。

### （２） 研究主題設定理由

社会に対する関心を持ち主体的に課題を捉え、社会的な見方・考え方を働かせて、他者と協働して課題解決を図る生徒を育成する。

### （３） 研究組織



## 2 研究の内容

- 生徒の実態や小学校での社会科学習内容との系統性、中学校社会科で育成すべき資質・能力を踏まえ、指導計画を作成・改善し、学習指導に生かす。
- 身に付けさせたい資質・能力を明確にし、その習得のために主体的・協働的な学習の充実を図る。
- 単元を貫くテーマを設けて、課題解決的な学習を適切に設定し、「追究する力」の育成を図る。

## 3 実践事例

### （１） 単元名「武士の台頭と鎌倉幕府」（1学年）

#### ① 学習課題

「源頼朝はどのように支配を広げたのか、その特徴をとらえよう」

#### ② 指導の手立て

本実践では、「追究する力」を育成するための学習過程のうち、「表現・発信」、「意見交換・討論」を中心的な授業の取組とした。

主体的な学習としては、

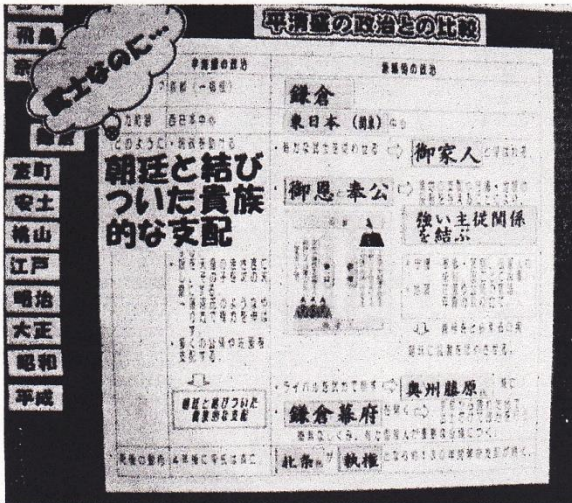
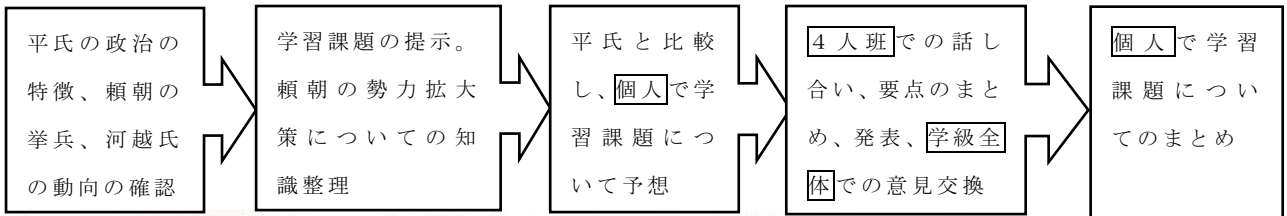
- 川越市立博物館と連携し、現在の川越市を支配していた「河越氏」に関する資料を活用する場面を工夫することにより、生徒の学習意欲を高め、主体的に課題を追究する。

協働的な学習としては、

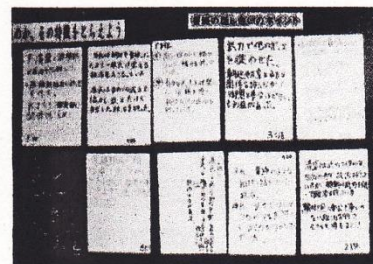
- 「河越氏」の動向を通し、鎌倉幕府と御家人との間に結ばれた御恩と奉公の関係を具体的に理解させる。
- 平清盛の政治との比較を通して、源頼朝が始めた武家政治はどのような特徴があるのかを、班で話し合っって考えをまとめ、発表する学習場面を設ける。
- 班での話し合いや発表、学級全体での意見交換などを通して思考を深め、学習課題についてのまとめを自分の言葉で適切に表現する。

という具体的な学習活動を設け、単元を貫くテーマの解決を図り、「追究する力」の育成を図った。

### ③ 授業展開



自分の意見を基に、4人グループでの話し合い。班内で活発な意見交換を行うことができた。



ホワイトボードにまとめられた、各班の意見。

【ワークシートと連動した板書掲示物】

○源頼朝はどのように支配を広げたのか、その特徴をたどらよ。 №19

平清盛の政治	源頼朝の政治
政治を行った場所 京都(一帯)	鎌倉
勢力範囲 西日本中心	東日本(関東)中心
どのように政治を伸ばしたか ・院政初期の本拠地となる。 ・一帯で勢力を伸ばした。 ・院政初期の本拠地となる。 ・一帯で勢力を伸ばした。 ・院政初期の本拠地となる。 ・一帯で勢力を伸ばした。	有力な武士を従わせる 御家人と呼ばれる。 御恩と奉公 強い主従関係を結ぶ 奥州藤原氏に 鎌倉幕府を 北条時頼が執権
死後の動向 4年後に平氏は滅亡。	北条時頼が執権となり約130年間幕府支配が続く。

(2) このころ、河越氏はどのような動きをみせていたか。

年代	源平の動き	河越氏の動き	連絡や奉公との関係
1180	・頼朝の挙兵	・平氏側だった河越重隆が源頼朝と戦い、その後頼朝に降参。 ・河越重隆の降参、連絡の質となる。 ・河越重隆の降参、連絡の質となる。 ・河越重隆の降参、連絡の質となる。	・頼朝の御家人となり、河越は御家人となる。 ・頼朝からの奉公が始まる。 ・頼朝と連絡の質となる。

通史と関連させた河越氏の動向の略年表

(3) 平清盛の政治と源頼朝の政治を比較して気付いたことを箇し記述する。

<自分で気付いたこと>	<班で話し合った内容>
平氏の一族での政治で、有力な武士を従わせ、その意見を聞き入れての政治。 ⇒ 武士の政治。 ⇒ 武士の政治。	頼朝は、主従関係を築いての政治。 一族政治 ⇒ 仲間を取り入れる(河越重隆) ① 頼朝 ② 仲間を増やす、 ③ 頼朝と結びつく ④ 仲間を増やす
武士と協力し、自立した政治。	武士との関係を大切にして 武士を従えた。 朝廷と 御恩と奉公
御恩と奉公で上層に上った政治。	有力な武士を仲間にし、信頼を得て、武士の政治を行っていた。
武士だけ、関係性(主従)	武士の政治 朝廷と天皇

各班の発表を聞きながら、自分や自分の班の意見との共通点や相違点を簡潔にメモする欄。回を重ねるごとに、簡潔に要点を記述できる生徒が増えている。

(4) 源頼朝はどのように支配を広げたのか、特徴をまとめよう。

頼朝の政治は、高い位の人々と結びついて一族で権力を握り、平清盛に支那して、源氏に代わって、多くの有力な武士を従えて、武士の意見を取り入れて、武士の政治を行った。また、その信頼を生かして、御恩と奉公の関係を築き、両方を得る政治を行い、130年も信頼を受け続けた。

各班の発表を踏まえ、学習課題についてのまとめを自分の言葉で記述している。

(2) 単元名「武士の台頭と鎌倉幕府」(1学年)

① 学習課題

「承久の乱のときの武士の行動から、鎌倉幕府がどのように支配を広げたのかを考えよう」

② 指導の手立て

本実践では、「追究する力」を育成するための学習過程のうち、「表現・発信」、「意見交換・討論」を中心的な授業の取組とした。

主体的な学習としては、

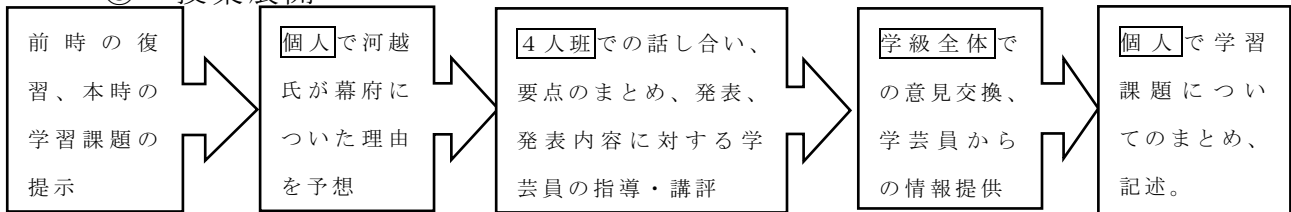
- 川越市立博物館と連携し、現在の川越市を支配していた「河越氏」に関する資料を活用する場面を工夫することにより生徒の学習意欲を高め、主体的に課題を追究する。

協働的な学習としては、

- 「河越氏」の動向を通し、鎌倉幕府と御家人との間に結ばれた御恩と奉公の関係を具体的に理解させる。
- 承久の乱において、幕府側の勝因と、幕府の支配のつながりを考え、個人で考察した内容を4人の班で意見交換し、班としての考えをまとめ、ホワイトボードにまとめて発表する。
- 他者の意見や発表を聞いて思考を深め、学習課題を多面的・多角的にとらえて考えを自分の言葉で文章にまとめる。

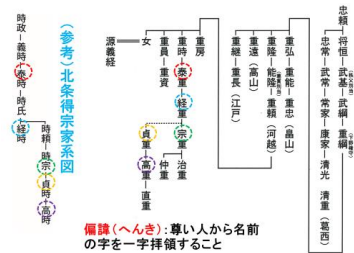
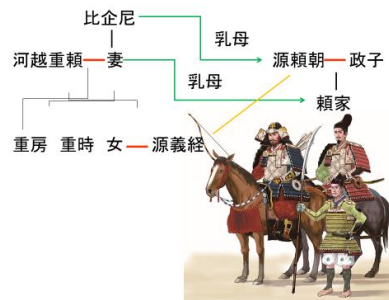
という具体的な学習活動を設け、鎌倉幕府は御家人との関係を強めることで、支配力を強化したことに気付かせ、「追究する力」の育成を図った。

③ 授業展開



【ゲストティーチャーによる解説】

【地域教材の資料化】



(3) 単元名「欧米諸国の進出と日本の開国」(2学年)

① 学習課題

「開国によって日本はどのような影響を受けたのだろうか」

② 指導の手立て

本実践では、「追究する力」を育成するための学習過程のうち、「情報の収集・加工と読み取り」、「表現・発信」を中心的な授業の取組とした。

主体的な学習としては、

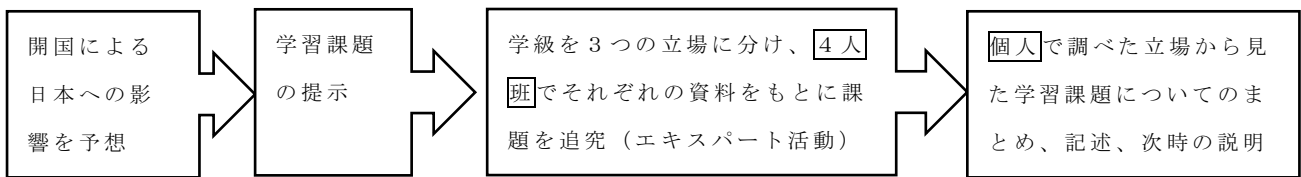
- 川越市立博物館の資料やゲストティーチャーとしての学芸員の活用、身近な地域を教材として取り上げるにより、生徒の学習意欲を高め、主体的に課題を

追究させる。

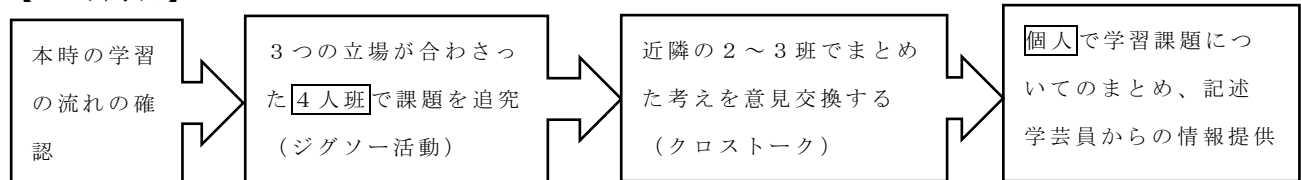
- 知識構成型ジグソー法を取り入れ、エキスパート活動やジグソー活動によって、幕府・川越藩・川越商人がそれぞれの立場で、どのような影響を受けたのかを調べ、その結果を伝え合うことを通し、主体的に学習に取り組む環境を設定する。協働的な学習としては、
  - エキスパート活動の結果を、さらにクロストークでグループごとに意見交換させることで、さらに思考を深め、学習課題を多面的・多角的に捉えて、考えを自分の言葉で文章にまとめさせる。
  - グループでの話し合いや発表、学級全体での意見交換などを通して思考を深め、学習課題についてのまとめを自分の言葉で適切に表現する。
- という具体的な活動を設け、単元を貫くテーマの解決を図り、「追究する力」の育成を図った。

### ③ 授業展開

#### 【1時間目】



#### 【2時間目】



【エキスパート活動】

【ジグソー活動】

【クロストーク】



## 4 研究の成果と課題

### (1) 成果

- 川越市立博物館との連携をさらに拡充し、通史と関連付けた地域の歴史素材の教材化を授業者と学芸員で協議し、作成した資料を授業で活用した。生徒は郷土の歴史への関心を高め、課題解決に主体的に取り組むことができた。
- グループでの話し合いや意見交換、発表などの協働的な学習活動を通して、生徒が学習成果を共有し、学習課題について多面的・多角的に捉えることができた。

### (2) 課題

- 主体的・協働的に学ぶ学習の充実に着目した単元計画の見直しや指導方法の工夫・改善をさらに努めていく。